

おお えどがわく  
大むかしの江戸川区

江戸川区は大むかしは海の底でした。

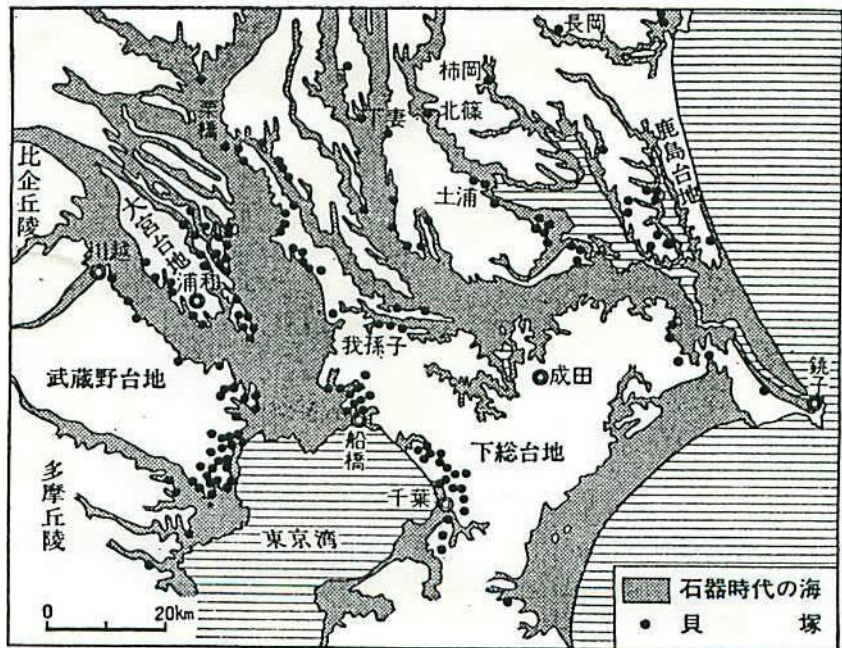
今から5000年くらい前までは、海が栃木県のあたりまで入り込んでいたことが、化石や地層を調べたことによってわかっています。

その後、約3000年前頃から地盤が隆起したり川が土砂を運んだりして、次第に陸地が広がっていきました。

むかしは大雨が降ると、毎年のように水が溢れ、人々が暮らしていた地面も土砂が積もり、次第に埋まっていったのです。

今でも全国各地において、地下から石や粘土で作られた道具や器が見つかることがあります。特に大勢の人々が住んでいたところからは、多くの石器や土器、家や水路の跡が見つかっています。そして、今ではそれらがいつ頃のものがわかるようになってきました。

昭和27年(1952)に、小岩ではじめて土器が見つかりました。その後、度々石器や土器が発見され、昭和58年から始めた発掘調査では、人々が住んでいた可能性のある遺構いこうも見つかっています。



関東地方の貝塚の分布とそれから推定した当時の海岸線  
(小出博『利根川と淀川』中公新書 1975年)

また、魚をとる網に使った土のおもり(土錘)も数多く出土しました。稲の粃の跡がついた土器も発見され、この地域の人々が米づくりや魚貝を捕って暮らしていたとみられます。

専門家の研究によって、今から約2000年前以降の弥生時代後期には、現在に近い地形となり、発見された土器の種類などから見て、古墳時代前期(約1700年前)には、小岩は人々の生活領域であったことがわかりました。

区内で古墳時代前期の土器が発見されたのは、今のところ上小岩遺跡だけです。今後の調査では他の遺跡でも発見される可能性はあるでしょう。

もう少し時代が新しくなると、文字による記録がつくられるようになります。

現在わかっている江戸川区に関する最も古い記録は、奈良県の東大寺正倉院に残っている下総国葛飾郡大嶋郷の養老5年(721)の戸籍です。ここに甲和里、仲村里、嶋俣里の三つの里があったことが記録されています。甲和里とは小岩のことではないかといわれています。

この記録によって今から約1300年前には、小岩付近に454人の住む村があったと考えられています。



上小岩遺跡の発掘風景(1984年)



上小岩遺跡から出土した土器



土のおもり「土錘」

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)